

り、比較的少い水蒸気の雰囲気では中谷又は小林の氷晶の結晶習性に関する図表によれば、柱状乃至板状の結晶 ($c/a=0.8\sim 1.4$) が成長する筈で、これらの結晶形はこれまでのハローの説明と一致する。

ハローについてのもっと詳しい記述は、筆者の一人 Blake が Monthly Weather Review に投稿しているもので、更に興味のある方は御参照いただきたい。尚、用語は気象学ハンドブック p.776 に従った。

第5図の写真はアラスカ大学海洋科学研究所の T. C. Loder 氏に使わせていただいた。ここに感謝の意を表わしたい。

参考文献

- 1) Blake, J. R., 1966: The Fairbanks Halo of April 27, 1966, Monthly Weather Review, **94**, 599.
- 2) Humphreys, W. J. 1940: Physics of the Air, 501-546, Mcgraw Hill, (Dover reprint 1964).
- 3) Kobayashi, T., 1961: The Growth of Snow Crystals at Low Supersaturations, Phil. Mag. **6**, 1363. 又は: 天からの手紙をよむ, 科学朝日, 昭和37年2月号, 83, 1962.
- 4) Nakaya, U., 1954: Snow Crystals, Harvard Univ. Press, 510 pp.
- 5) Ohtake, T., 1959: Investigation of Warm Rain based on Radiosonde Sounding Data, Sci. Rep. Tohoku Univ. Ser. 5, Geophys., **11**, 112.
- 6) Visser, S. W. 1960: Die Haloerscheinungen, Handbuch der Geophysik, **8**, Kap. 15, 1027-1081, Borntraeger, Berlin.
- 7) 気象学ハンドブック, 第11章 物理気象の部, p 774-778, 1958, 技報堂.

理事会だより

第14期 第10回 常任理事会

日時 5月8日 15時~19時

場所 気象庁第3会議室

出席者 畠山, 三宅, 北岡, 岸保, 根本, 朝倉, 須田, 小平, 桜庭, 神山 (以上理事)
藤田 (監事)

報告

学術会議関係 (三宅, 神山, 岸保)

- (1) GARP については、第47回学術会議総会で決議し、政府に勧告した。
- (2) 自然災害科学研究の拡充強化について、第5部 (工学) から提案された。計画不備なと、関連の学会に対する連絡が充分でなく再検討することになった。地物研連では、趣旨は賛成の意を表わしたが、気象学会とは、余り連絡がなかったため、今後の連絡を待って意見を出すべきである。

議題

1. 総会の準備について

(1) 41年度決算報告について
桜庭理事より提出された報告原案どおり総会に提出することになった。

(2) 42年度事業計画案および予算案について

財政上、経費を伴う事業は、ほとんど例年どおりのものしか行えないが、例年と異なるものとしては、新しい気象学教室の実施 (報告事項 4 参照)。国際大気電気会議

の主催者の一となる。ことなどを総会に提出することとなった。その他、気象学会の運営改善を更に検討し、必要により秋に臨時総会を開き、定かん改正を提案する。気象学の長期計画、GARP 計画の推進についてできることは努めて行いたいこと、財政基礎の強化、会員の増加など努める方針なども決められた。予算案については、担当理事提出の原案を小修正し、総会に提案することになった。

(3) 総会における事務分担を決めた。

2. 選挙細則について、

前回の理事会で審議した結果を入れた改正案が根本理事から提出された。これは、理事会の一応の案として、今回の総会で説明する。改正案の正式提案は、今秋の臨時総会で行うことなどが決定された。詳細は省くが、改正の要旨は、現行細則では選挙管理委員会の任務と権限が明記されていないので、これをはっきりさせることが主眼である。その内容は、一般の学会で行われているものに準ずる。

(詳細は追って掲載される総会議事録参照)

3. その他

ソ連観光団中の気候学者 (元ソ連気象局次長 S. F. ラビタヤ) および米国からロケットのシンポジウムのために来朝中の学者 (NASA, J. F. スパーリング) の講演会を気象庁と共催で行うことになった。